

令和4年6月三木市教育委員会（定例会）会議録

1 開催日程

- (1) 開 会 令和4年6月17日（金）午後2時00分
(2) 閉 会 令和4年6月17日（金）午後5時30分

2 場 所 三木市役所 5階 大会議室

3 議事日程

- 第 1 会議録署名委員の指名について
第 2 会議録の承認について
第 3 会議の非公開の決定について
第 4 協議事項4 令和3年度の三木市教育委員会の事務の管理及び
執行の状況に関する点検・評価報告書（案）につ
いて
第 5 報告事項 三木市立図書館協議会委員の委嘱について
第 6 報告事項 三木市文化財保護審議会委員の委嘱について
第 7 報告事項 三木市美術館協議会委員の委嘱について
第 8 報告事項 各課（室）の所管事項について
第 9 その他
第10 次回定例会の開催日程について

4 出席者

教 育 長	大 北 由 美
委 員	石 井 ひろ美
委 員	實 井 政 治
委 員	中 嶋 直 裕
委 員	梶 正 義

5 欠席者 なし

6 事務局出席者

教 育 総 務 部 長	本 岡 忠 明
教 育 振 興 部 長	横 田 浩 一

教育総務課長	森田真規
教育施設課長	荒田知宏
生涯学習課長	河端康
図書館長	伊藤真紀
文化・スポーツ課長	金井善純
学校教育課長	田中智美
教育センター所長	橋本泰一
学校再編室長	鍋島健一
教育・保育課長	仲谷淳
学校再編室副室長	武内克朗
生涯学習課係長	丸岡まや
教育総務課係長	三觜牧恵
教育総務課主事	大野剛史

7 傍聴者 1人

開 会

教育長が、令和4年6月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

日程第1 会議録署名委員の指名について

教育長が、三木市教育委員会会議規則第28条の規定により、本日の会議の会議録署名委員に、中嶋委員と梶委員を指名した。

日程第2 会議録の承認について

教育長が、令和4年5月定例会（27日開催）、令和4年5月臨時会（2日及び19日開催）の会議録について委員に諮り、全員一致で承認された。

日程第3 会議の非公開の決定について

教育長が、議事の進行について委員に諮り、公開で審議することを決定した。

日程第4 協議事項4 令和3年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書（案）について

○森田教育総務課長が次のように説明した。

教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会が、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表するものである。

この報告書は、「三木市教育大綱」を踏まえ、「第3期三木市教育振興基本計画」及び「令和3年度三木市教育の基本方針」に基づき、点検・評価を行っている。また、市長の権限に属する事務で教育委員会事務局職員が補助執行している事務についても、点検・評価の対象としている。

令和2年度からの変更点は、令和3年度が「第3期三木市教育振興基本計画」の初年度となるため、報告書の様式を「項目立て・箇条書きに近い記載」とし、一新することとした。従来の報告書より見やすくなるため、概要版を廃止する。スケジュールについては、教育委員会定例会での協議の時期を1か月前倒しした。

2ページから3ページは、第3章「第3期三木市教育振興基本計画体系」一覧表を記載している。

4ページ以降は、施策の点検・評価を記載している。報告書の様式は、施策ごとに令和3年度に実施した主な事業、指標における数値目標の達成状況、取組の評価（成果・課題）、令和4年度の取組を記載した。実施した主な事業については、令和2年度に引き続き、例年実施していた事業及びイベントが中止、延期又は手法を変えての実施など、新型コロナウイルス感染症が大きな影響を及ぼしている。数値目標については、第3期三木市教育振興基本計画で設定した計画期間中に達成すべき数値目標として、計画最終年度である令和7年度の数値目標を記載している。

6ページは、全国学力・学習状況調査で項目削除となった指標が2つある。そのため、代替案の指標を追加した。

29ページは、項目削除となった指標があるが、代替案がないため、削除する。

46ページは、補助執行している事務で、「基本方針Ⅰ－1施策(6)就学前教育・保育の充実」に掲載したものを除いた、放課後児童健全育成(アフタースクール)事業について記載している。

最後に、点検・評価報告書には、教育に関し学識を有する者の知見の活用を図ることと法律に定められていることから、外部評価者の意見を記載する予定である。

今後のスケジュールとして、今回の協議で頂いたご意見等をもとに、加筆修正を加え、7月定例会でもう一度協議をいただき、その内容で外部評価者の評価を加え、9月の定例会に議案として提出する予定である。

(石井委員) 報告書の構成を見直したことにより、見やすくなった。ただ、施策ごとの意見を述べる前に、全体を通して、3点申し上げたい。

1点目に、「Ⅱ 指標における数値目標の達成状況」の数値について、「Ⅲ 取組の評価」に記載がなく、検証がなされていない箇所が多々見受けられるため、確認していただきたい。

2点目に、評価の内容に関して、抽象的な表現が多く、毎年度使える文面という印象を受けた。このため、令和3年度ならではの、キーワードになるような言葉を記載していただきたい。

3点目に、令和2年度の点検・評価報告書には、冒頭に「はじめに」があった。「はじめに」は、この報告書がどのような方向性で作成されているのかがわかる、重要な最初の章であると考えている。今回の報告書にも記載するのか、記載する場合はいつ見せていただけるのか、教えていただきたい。

(森田教育総務課長) 「はじめに」については、教育委員会7月定例会で提示する予定である。

(梶委員) 様式が変更になったことに加え、第3章に第3期三木市教育振興基本計画体系の一覧表が掲載されたため、見やすく記載箇所が拾いやすい報告書になった。

石井委員もおっしゃったが、指標のデータについての分析があり、それが次年度の取組に繋がれば、さらに見やすくなると感じた。

(實井委員) 同じ意見にはなるが、令和2年度の点検・評価報告書と比べて、見やすくなったという印象が強い。内容をもう少し見極めて、

見やすく理解がしやすい内容に置き換えると、さらに良くなる。

(中嶋委員) 項目立てについては、前年度に意見があった。きっちり反映されており、大変良かった。

全てが基本方針Ⅰに見えるため、基本方針Ⅰから基本方針Ⅱに変わるところで、表示方法を変えていただきたい。

(森田教育総務課長) 基本方針Ⅰ及びⅡがそれぞれ分かりやすいように、表示を検討する。

(石井委員) 6ページの指標の2時間以上勉強している中学生について、数値目標の令和7年度が50%に下がっていることについて教えていただきたい。

(田中学校教育課長) この指標については、全国学力・学習状況調査の設問を引用しており、令和元年度に設定した。令和元年度は38.4%と低い数字であったため、令和7年度の目標を50%とした。令和2年度は全国学力・学習状況調査が未実施であるため数値がわからないが、令和3年度には、令和7年度の目標の50%を超えて、68%になった。

(教育長) 先ほど、数値目標がある項目が評価に記載されていないという指摘をいただいた。全国学力・学習状況調査の成績や子どもが勉強した時間を踏まえて、評価や令和4年度の取組にどう繋げるかを考え、修正していただきたい。

(石井委員) 7ページの「授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」の指標(案)については、教員に指示されて使用するのか、ある程度子どもに任せて主体的に使用するのを測るものなのか、教えていただきたい。どちらにも解釈できるものであるならば、混乱するおそれがあると思う。

(田中学校教育課長) この質問は、何回くらい使用したかという質問である。教員がタブレットの使用を促すケースや、何かを調べる際に子どもが自主的にタブレットを使用するケースがあり、必ずしも主体が教

員とは言い切れないと考えている。指標に活用できるかも踏まえて、検討する。

(石井委員) 語句の説明について。8ページの学力育成プロジェクト会議と向上対策会議の違いが分からない。このように、初めて出てくる文言については、メンバー構成や目的など、どこかに説明をいれていただけるのか。

(森田教育総務課長) 令和2年度の点検・評価報告書でも、文言説明を記載しているので、記載方法も含め検討する。

(石井委員) 「児童生徒の実態から授業改善に取り組むことができた。…より具体的に評価し、授業改善に還元できるよう取り組む必要がある。」については、授業改善のための授業改善のように受け取れる。子どもにどのような力を付けるために授業改善を行ったかを記載した方が伝わると考える。

(田中学校教育課長) 令和3年度に各中学校区で論理的思考力を育てるための授業改善等、子どもたちに力を付けるための授業改善に取り組んでいるため、記載方法を検討する。

(石井委員) タブレットの活用については、令和3年度は定着に繋げることを目標にしていたと思う。「個別最適な学びと協働的な学びの充実を一体的に推進する。」としているため、令和2年度の課題が令和3年度に評価として挙がっていないことになる。

(橋本教育センター所長) タブレットの活用が進んできて、より一層定着することが令和3年度の課題にあった。前提には、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を進めることがあり、令和2年度のタブレットの使用自体を目標とすることは、方向性が違うと考える。

(石井委員) 「タブレット端末の効果的な活用方法について研究していくことが必要である。」について、チームを作り研究していくのか。

(田中学校教育課長) 令和4年度については、各学校単位で研究していく。

- (石井委員) どの程度データベースを活用しているか集約できているのか。
集約できているのであれば、指標にできるのではないか。データを取るのが難しいとは思いますが、内容が分かりにくいいため、書き方を検討していただきたい。
- (橋本教育センター所長) データベースについては、アクセス数はカウントしているが、閲覧したページやその活用内容については確認できていない。指標とするには、さらに調査が必要になるため、指標とし難しいと考える。
- (大北教育長) 授業改善に繋がっているか再検討することは可能なのか。
- (橋本教育センター所長) データベースがあることを周知できていないため、まずは周知し、活用方法の検討が必要である。
- (石井委員) 「みっきいすてっぷ」の活用について、学校間で取組に差があったことについて、どのような差があったのかの記載がない。「取組の仕方等を見直す必要がある。」とあり、学校を取組であるのか子どもを取組であるのか誤解を受けないよう表現を変えていただきたい。
「みっきいすてっぷ」の活用に関しては、学校間の取組に着目して、差を無くそうとしていることを令和4年度の柱にできるのではないか。
- (田中学校教育課長) 学校間の取組の差については、「みっきいすてっぷ」の活用量の差である。令和2年度の「みっきいすてっぷ」の活用量が大きくはなかったため、令和3年度は各校への周知に努めたが、令和3年度についても、活用量に大きな変化が見られなかった。現場にとって活用し難い理由があるのではないかと思うため、取組の仕方を見直し、施策として継続するか検討する必要がある。
- (石井委員) 「みっきいすてっぷ」の内容を精査し、今の時代に合ったものにする必要があると思う。学校習慣の確立で学校間の差に対する研究がないので、どんな取組の差があり、これに対して4年度何をすることもう一度検討していただきたい。

(梶委員) 「みっきいすてっぷ」を使用している子どもの成長に「みっきいすてっぷ」が役立っていることが分かればいいと思う。それがないと令和4年度の取組に進めない。せつかく良いものを用意しているので、効果を可能な限り分析し、効果があるなら自信をもって進め、活用していない理由を調べ、活用しやすいように変更すると良いと思う。

(田中学校教育課長) 現状は、「みっきいすてっぷ」を活用することによる子どもたちの成長を見えるかたちで示すことができていない。見えない部分の評価についても、学力向上対策委員会で評価方法を検討し、「みっきいすてっぷ」の活用につなげていく。

(石井委員) 12ページの「自分には良いところがあると肯定的に回答した児童生徒」の割合が、小学校6年生では下がっていることについての分析結果の記載はあるのか。

(田中学校教育課長) 指標が下がった理由を分析して、それに関する記述を入れるように検討する。

(石井委員) 教員と教職員の使い分けをしているのか確認していただきたい。

(田中学校教育課長) 全てが意図して使い分けられているか確認させていただく。

(中嶋委員) 生徒指導の充実で、「中学校での問題行動件数を令和2年度より低い水準に抑えることができた。」とすると、小学校はできていなかったことが一つの課題となる。問題行動、いじめの推移、不登校の児童生徒の小中学校別の状況のデータ表が必要であると考えます。

(田中学校教育課長) 小学校の問題行動件数に触れていないため、確認し記載する。

(大北教育長) 具体的に数値を記載するかどうかについては、教育委員会事務局で相談する。

(石井委員) 令和2年度に、例えば道徳科の授業での学習が実践に繋がるようなカリキュラムの編成を検討してはどうかと学識経験者から提言があった。それに関して、カリキュラムを編成して、実践に繋がるような取組をしたのであれば、実際に実践に繋がったのかを記載する必要があると思う。

(大北教育長) 道徳教育は、子どもたちの心や態度の変容に触れながら、カリキュラムについても記載する。

(石井委員) 体験的学習活動の充実について、「体験活動のカリキュラムの充実を図っていく。」としており、目的となることが記載されていない。

(田中学校教育課長) カリキュラムを作ることが目的にならないよう記載方法を検討する。

(石井委員) 16ページの全国体力・運動能力、運動習慣等調査の指標で、中学2年生男子のみ上がっていることについての検証があったのか教えていただきたい。

(田中学校教育課長) 同じ子どもたちのデータではないので、比較が大変難しい。全体的に三木市が低いのは事実であるため、分析評価したものを記載する。

(石井委員) 16ページの体力・運動能力向上の推進の中で、「運動の機会が減少した。」とあるが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえても運動機会を確保しないといけないということが次の取組に挙がってくると思う。学校の取組で運動を好きになってもらうなどして、運動の機会を確保することはできないのか。

(田中学校教育課長) 新型コロナウイルス感染症の影響で運動の機会が減少しているが、感染症が落ち着くと以前のように、運動の機会は増えると思う。積極的に、運動する取組を体育研修部会とともに検討する。

(梶委員) 特別支援教育の推進について、指導計画と支援計画があると思

うが、支援のみになっているところがある。教育機関であるため、どちらも入れておくのが良いと思う。

(田中学校教育課長) 指導・支援の表記については、整理していく。

(梶委員) 令和4年度を取組について、「個別の指導計画に基づく指導・支援の必要性を再認識し、」とあるが、「再認識」とするとあまりされていなかったと解釈できるため、「更なる充実をめざし、」などに改める方が良いと思う。

(田中学校教育課長) 令和4年度を取組について、誤解のないように修正する。

(梶委員) 全体として、インクルーシブ教育という言葉を入れるほうがよいと考える。

(田中学校教育課長) インクルーシブ教育を行っているため、入れる方向で検討し修正する。

(石井委員) 「個別の指導計画について、必要な児童生徒に対して作成できているか十分に確認できていなかった」原因が記載されていない。追記していただきたい。

(田中学校教育課長) 個別の指導計画については、本来、学校に訪問した際に作成状況を確認しているが、確認できていない学校が一部あり、作成状況が99, 3%に下がった。なぜ確認できない状況であったのか分析しないといけないと思う。誤解を生む記載であるため変更する。

(石井委員) キャリアパスポートについて、令和3年度の成果として記載しているが、どのように実施しているのか教えていただきたい。

(田中学校教育課長) キャリア教育は、小学校1年生から取り組んでおり、小中学校間でキャリアノートで引継ぎが行われている。令和2年度から高校にも引き継ぐこととしたが、キャリアノートでは量が多いため、集約したのがキャリアパスポートである。初年度については、キャリ

アパスポートを高校に提出できなかった生徒がいたため、キャリアパスポートは高校に提出するものであることを各学校で生徒に周知徹底した。

(大北教育長) 生徒にキャリアパスポートをただ渡しただけになっているため、引き継ぐことの目的など記載の方法を検討する。

(石井委員) 肯定的に夢や目標を持っているという児童生徒の割合が下がっていることについての分析が記載されていない。

(田中学校教育課長) 指標については、分析評価を行い記載する。

(石井委員) 就学前教育・保育について、22ページの「現場の実態に即した内容について主体的に園内研修を行った。」とある。学識経験者から令和2年度に、「市全体としての集約と共有も図りながら、次世代への継承や後進育成等に活用されることも期待したい。」と提言されているが言及していないことについて教えていただきたい。

(仲谷教育・保育課長) 令和3年度の市全体の集約の確認を行い修正する。

(石井委員) 保育士確保について、様々な取組をしていたと思うが、記載があまり見当たらない。

(仲谷教育・保育課長) 保育士確保に様々な取組をしており、保育士確保が入所保留児童解消に繋がるため、確認して加筆する。

(石井委員) 教育環境の整備と充実について、26ページの施設一体型の小中一貫教育については、学校、地域及び保護者に向けての情報発信や理解を求めるなどの文章を記載する必要はないのか。

(鍋島学校再編室長) 教育委員会会議でも指摘があったが、令和3年度は、市民や保護者に対して広く周知活動を行う機会が少なかった。令和4年度は協議会を立ち上げ、意見交換を進める中で、市民や保護者に対して周知していく方向性である。その主旨を令和4年度の取組に記載する。

(石井委員) 学校、家庭、地域が連携した教育の推進について、28ページの保護者と教員がともに学ぶ機会を持つことができたことにより、家庭教育の向上にどう繋がったのか教えていただきたい。

(橋本教育センター所長) 第1回目の開催であり、具体的な成果が今のところ記載できない。これからも計画して実施するため、今後成果が出てくると考える。

(石井委員) 実施したことを成果とするならば、今後実施回数を増やすことができるのか問題が生じる。オンライン開催であると実態が掴めない部分もあるため、開催方法も含めて検討する必要がある。

(大北教育長) 効果があったかどうか分析が難しいのであれば、回数を評価にするかについては検討する。

(石井委員) 教職員の資質・能力の向上の29ページ、「9グループ中5グループがタブレットの活用について研究を行った。」とあり、この部分の成果と課題について教えていただきたい。

(橋本教育センター所長) 令和3年度に実施した主な事業については、整理を行い、成果と課題を記載する。

(石井委員) 「対面での受講希望者が少なくなるということが課題であり、今後の研修の開催方法について再考する必要がある」と課題を挙げているが、取組については、「原則として、対面での研修を実施する。」とするのは、繋がりに矛盾があると思う。

(橋本教育センター所長) オンライン等で配信することにより、受講者は増えるが、対面での希望者が減るというデメリットがあった。オンライン等で行うと、受講者に伝わりにくいというところもあったため、今年度は原則として、対面での研修を検討している。

(石井委員) 「若い職員」は、年齢かキャリアのどちらを指すのかが分かりにくい表現である。

(田中学校教育課長) キャリアの浅い教員は若手が多かったこともあり、ここでは年齢のことを記載しているが、キャリアの浅い教員全員に実施しているため、記載を改める。

(石井委員) ICT活用に関する専門研修講座への参加者について、分母が分からないので割合で記載していただきたい。

(橋本教育センター所長) ICT活用に関する専門研修講座への参加者については、割合での記載に改める。

(石井委員) 外部人材に活用については、年度ごとの採用人数を集約し、それにより実際にどのような変化や効果があったのか記載できると思う。

(田中学校教育課長) 部活動指導員及び部活動指導補助員の人数を集約し、業務改善の効果についても追記する。

(梶委員) 「人権教育の推進」の「いじめ防止の推進」では、早期発見、早期解決に加えて予防についても記載があっても良いと考える。

(平井人権推進課長) 中学生を対象とした弁護士による、いじめ防止出前授業という事業を実施しており、このような取組は、予防といった効果も表れていると考えるため、予防についても追記する。

(梶委員) 虐待についてはいかがか。子育て支援関係の動きは、まさに予防の動きと考える。

(中西子育て支援課長) 令和2年度から新型コロナウイルス感染症が蔓延し、あらゆる行事等が中止やリモート開催になる中で、虐待防止にかかるみきっ子未来応援協議会の要保護児童部会だけは、関係機関が参集し、実際に顔を突き合わせた情報交換会を継続してきた。

令和2年度は5月、6月に学校の臨時閉校があり子どもたちの様子を学校の先生方が把握できない状況にあった。このため、子育て支援課で家庭訪問や電話連絡、学校の教員やアフタースクールと連携して虐待が悪化しないような取組を行ってきた。そのあたりはコロナ禍における特徴だと考えている。

令和3年度については、虐待の通報通告件数は平年並みに落ち着いた。なお、令和2年度の児童福祉法の改正により、しつけと称した保護者からの体罰やこどもの前での夫婦喧嘩なども虐待にあたるということで全国的な虐待の件数は上昇している。件数は上昇しているが、虐待に対する世間の認知度が上がり、通報通告件数が増加しているという良い面もあるため、そのあたりも注視しながら、虐待の防止や早期発見に取り組んでいる状況である。

ただし、子育て支援課では、虐待の報告が上がってきて初めて対応ということになるため、どれだけ予防できたかを推し量る数値データがなく、評価しにくい。

(石井委員) コロナ禍であっても、要保護児童部会は活動していた部分については評価すべきであると考え。また、令和4年度の取組として年度の特徴を少し追記していただきたい。

(大北教育長) 知っていただく事も大事であると思うため、地道な取組について記載し、また、評価についても記載する。

(石井委員) よりよく生きるための学びの充実に記載のある「若い世代」とは、どの辺りの年齢を指しているのか教えていただきたい。令和4年度の取組については、体言止めになっている部分があるため、統一していただきたい。

(河端生涯学習課長) 生涯学習課での「若い世代」は、高校生から20代をイメージしているので、分かりやすい表現に改め、体言止めの部分は表現方法を修正する。

(石井委員) 文化遺産の活用について、評価として「発信の在り方を検討し、実行していくことが課題である。」としている。令和4年度の取組の中にそれに対する記載をしていただきたい。

(金井文化・スポーツ課長) 課題として挙げているため、取組についても追記する。

(石井委員) スポーツ環境づくりの推進のパラリンピック聖火ビジット事

業についても用語説明を記載していただきたい。

(金井文化・スポーツ課長) パラリンピック聖火ビジット事業については、パラリンピックの際に点火した聖火を三木市で3日間保管し、その後、神戸総合運動公園ユニバー記念競技場に集約することを障がい福祉課と連携して取り組んだ事業である。用語説明の記載については、他の部分と合わせ記載する。

(石井委員) アフタースクール事業について、今後は国の方針でも新型コロナウイルス感染症対策などは、緩和していくことになると思うため、内容を見直す必要があると思う。

(仲谷教育・保育課長) 具体的な方針がまだ出ていない時に作成をしているため、新型コロナウイルス感染症に関する部分は見直しを行い、実情にあった内容に変更する。

(大北教育長) 今後の流れとして、今回いただいたご意見やご指摘をもとに内容を精査し、次回の定例会で再度協議の上、外部評価者の評価を受け、9月定例会において議決いただくこととする。

日程第5 報告事項 図書館協議会委員の委嘱について

○伊藤図書館長が、次のように説明した。

三木市立図書館条例第5条第3項の規定に基づき、図書館協議会委員を委嘱したので、三木市教育委員会の権限に属する事務の一部の教育長への委任等に関する規則第2条第2項第5号の規定により報告する。

団体の役員交代のため、2ページの名簿にある1人を図書館協議会委員に委嘱した。委嘱期間は、令和4年6月1日から前任者の残任期間である令和5年5月31日までである。

日程第6 報告事項 三木市文化財保護審議会委員の委嘱について

○金井文化・スポーツ課長が、次のように説明した。

三木市文化財保護条例施行規則第12条第1項の規定に基づき、文化財保護審議会委員を委嘱したので、三木市教育委員会の権限に属する事務の一部の教育長への委任等に関する規則第2条第2項第5号の規定により報告する。

任期満了のため、4ページの名簿にある7人を文化財保護審議会委員に委嘱した。委嘱期間は、令和4年6月1日から令和6年5月31日までである。

日程第7 報告事項 三木市美術館協議会委員の委嘱について

○金井文化・スポーツ課長が、次のように説明した。

三木市立美術館条例施行規則第10条の規定に基づき、美術館協議会委員を委嘱したので、三木市教育委員会の権限に属する事務の一部の教育長への委任等に関する規則第2条第2項第5号の規定により報告する。

任期満了のため、5ページの名簿にある6人を美術館協議会委員に委嘱した。委嘱期間は、令和4年6月1日から令和6年5月31日までである。

日程第8 報告事項 各課（室）の所管事項について

（1）教育施設課報告事項

○荒田教育施設課長が次のように報告した。

定例教育委員会5月定例会の報告から、緑が丘東小学校給食棟屋上防水改修工事を追加している。建築から年数が経っており、雨漏れをしているため、早急に対応するものである。

（2）生涯学習課報告事項

○丸岡生涯学習課係長が次のように報告した。

吉川コーヒークラブが6月11日に旧吉川支所多目的交流スペースでコーヒーマシンの提供を行った。吉川町公民館で活動している団体であるが、新しく設置した多目的交流スペースでの活動を開始した。また、多目的交流スペースの愛称について4月から公募を行っており、151件の応募があった。愛称が決まり次第報告する。

細川町民つり大会並びに子ども会ともだちキャンプを開催する予定である。

（3）図書館報告事項

○伊藤図書館長が次のように報告した。

青山図書館12周年事業あおとフェスを6月5日から記載のとおり順次開催した。

おっちゃんの絵本読み聞かせ会を6月11日に吉川図書館で開催

し、参加者は13人であった。今年はNHK神戸放送局によるテレビ取材が入ったため、緊張した中での開催であった。

小学生の夏休みの宿題である自由研究を支援するため、「自由研究ヒントカード」コーナーの設置をする。

たなばたのおはなし会を7月3日に吉川図書館で開催する。

(4) 文化・スポーツ課報告事項

○金井文化・スポーツ課長が次のように報告した。

神戸電鉄粟生線 開通70周年三木駅新駅舎完成記念特別イベント「鉄道風景写真を撮ってみよう」を6月12日に開催し、参加者は12人であった。

企画展「よねざわともみ展ハンペルマンに恋をした～紐仕掛け人形の魅力～」を5月21日から6月12日まで、堀光美術館で開催し、来館者数が1262人であった。吉川小学校の児童が作品作り体験のワークショップに参加するなど、好評な企画展であった。

少年スポーツ大会小学生陸上競技の部を6月11日に三木総合防災公園第2陸上競技場で開催し、参加者は195人であった。

(5) 学校教育課報告事項

○田中学校教育課長が次のように報告した。

体育的行事、修学旅行及び自然学校については、各学校の事情に応じた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施した。

第3回定例校園長会を6月2日に開催し、報告及び依頼を行った。

4月末、5月末生徒指導関係のまとめについては、ゴールデンウィーク明けの問題行動が増えることなく落ち着いていることや、学校行事に参加できた不登校生もいることを報告した。不審者侵入を想定した防犯体制を強化するよう各校に依頼した。

教育委員会5月定例会で協議を行った「三木市立学校における事故調査委員会の調査報告」を受けての改善策について、修正及び変更点について説明する。

1点目に、ガイドラインを作成することだけを記載すると、今まで何も行っていなかったと捉えられるため、各校で「医療的ケア実施要領」を作成して実施してきたことを追記した。

2点目に、学校看護員の研修について、参加しやすい体制を構築するとしていたが、学校看護員の勤務体系の問題であるため、研修、

実施するという記載に変更した。

3点目に、「医療的ケア安全委員会」について、今までの「医療的ケア検討委員会」の名称を改め、継続設置することを明記した。開催状況の報告を受けるだけでなく、会議の内容についても指導する旨を追記した。

4点目に、学校看護員の採用については、近隣の大学や病院にも協力要請することを検討する旨を追記した。

5点目に、医療的ケアに関する第3研修については、消極的な意味合いにならないよう、「希望する者」を削除した。

6点目に、シミュレーション訓練については、「年度当初はもとより、個別マニュアルの更新ごとに必要に応じて行い」とし、どの程度実施するのかがわかるようにした。

文言修正については、「医療的ケアの必要な児童生徒」を「医療的ケア児」に「医療的ケアの必要な児童生徒が在籍する学校」を「医療的ケア実施校」に、県のガイドラインとも整合させ、「校内」を取り「医療的ケア安全委員会」に変更した。

(6) 教育センター報告事項

○橋本教育センター所長が次のように報告した。

不登校対策適応教室については、5月末で5人の利用者がいる。例年と比較して人数は減少しているが、別室登校をしている生徒が多いと聞いている。別室での指導は、教育センターでは確認が不十分であるため、学校と情報共有しながら進めていく。

第28回三木市CGアートコンテスト第1回審査会を6月21日に実施する。

専門研修講座「ケース会議の重要性について」を6月28日に実施する。

青少年センターについて、市青少年補導委員会第2回役員会を6月3日に実施し、令和4年度については、指導活動を例年どおり行うことを確認した。

(7) 学校再編室報告事項

○武内学校再編室副室長が次のように報告した。

第1回小中一貫教育推進協議会を6月1日に市役所大会議室で実施した。事務局から地域及び保護者へ小中一貫教育に関連した説明

を行い、意見や質問をいただいた。質問については、第2回小中一貫教育推進協議会において回答する。

6月27日に吉野さくら学園へ、先進校視察を行う。

教育委員会5月定例会で質問をいただいた統合校の様子について、吉川小学校長からの聴き取りでは、休み時間には、旧校区に関係なく、運動場や校舎内でにぎやかに遊んでおり、子どもたちは馴染んで生活している。保護者については、統合の不安があり、4月当初は学校への問い合わせが多かったが、その都度丁寧に対応していると聞いている。スクールカウンセラーについては、統合前に吉川小学校及び東吉川小学校を担当していたスクールカウンセラーを令和4年度にも吉川小学校に配置して対応している。

(8) 教育・保育課報告事項

○仲谷教育・保育課長が次のように報告した。

三木市保育協会総会を5月28日に教育センター大研修室で実施し、参加者は50人であった。

アフタースクール学校連絡会を6月6日に自由が丘小学校で、6月16日に別所小学校で実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で延期していた学校連絡会を終え、令和4年度は775人の受入れを行う。夏休み限定のアフタースクールの受付は、6月11日に締め切り、申込者が98人であった。

特定教育・保育施設評価委員会を6月21日に実施する。

特定教育・保育施設に係る実地監査は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった令和3年度分を実施する。

アフタースクール支援員普通救命講習を7月8日に実施する。

日程第9 その他 なし

日程第10 次回定例会の開催日程について

教育長が、次回の教育委員会定例会の開催について諮り、令和4年7月22日午後2時から開催することを決定した。

閉 会

教育長が、令和4年6月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。

【令和4年6月三木市教育委員会定例会会議録】

教育長

署名委員

署名委員

記録者